



NEWS

2013 No.272

11

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

月号

第9回通常総会開催 今期テーマ「けいおうかいらい継往開来」に決まる

NGP三大信条のDNAを引き継ぎつつ時代の変化を柔軟に捉え、「お客様との信頼を深める」ことをお約束します

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月28日、名古屋市中区の名古屋観光ホテルで第9回通常総会を開催しました。部品取り車両の仕入れ価格が高騰するなど、事業環境が厳しさを増す中、第二期長谷川利彦理事長体制の下、NGPの伝統・結束・協調を継承し、組合員一人ひとりが自らの責任を全うすることで目標500億円達成に向け前進することを決意しました。



NGP協同組合第9回通常総会で挨拶する長谷川理事長

冒頭の挨拶で長谷川利彦理事長は、部品取り車両の仕入れ苦戦、部品生産力の低下、自動車保険ノンフリート等級別率制度改定など、理事長就任後の2年間に事業環境が大きく変化したことを振り返りました。

さらに、「これらの環境変化はまだまだ途に就いたばかりの事象であり、今後も大きく変化する事業環境に向かって、我々NGPIは一致団結をもって対処していかなければなりません」と、NGPグループのさらなる結束強化を呼びかけています。

通常総会では平成24年度事業報告、役員改選、平成25年度事業計画などについて審議され、いずれも賛成多数で可決されました。その結果、長谷川理事長は留任し、副理事長には小林信夫・(有)しのぶや(栃木県那須郡)代表取締役会長、理事には塩谷剛史・(株)拓殖商会(群馬県伊勢崎市)常務取締役、青木金也・(株)マルトシ青木(静岡県藤枝市)取締役営業部長、戸田暢生・(有)メタルオート北陸(石川県小松市)代表取締役、桜井日出男・(株)桜井(兵庫県尼崎市)会長、中島邦晃・(株)オートリサイクルナカシマ(大分県日田市)代表取締役が新たに就任しました。

そして、平成25年度事業計画の中で、「『継往開来』NGPの伝統・結束・協調を継承する」が今期のテーマに採択されました。これは先人の事業を受け継ぎ発展させながら、未来を築いていくことを意味します。

長谷川理事長は通常総会後に開催された懇親会の冒頭で「今期も、リサイクル業界を取

り巻く事業環境は激しく変化するものと思われれます。その変化を捉えて事態を変化させる柔軟性も不可欠ではありますが、我々NGPは、決して変えることのできない創業者・大石一彦名誉顧問の理念であるNGP三大信条のDNAを今後も引き継ぎ、成長することが重要であると認識しております」と挨拶しました。そのうえで「NGPの伝統・結束・協調を継承し、組合員一人ひとりが自らの責任と義務を全うすることで『お客様との信頼を深める』ことを、ここに組合員全員の決意としてお約束申し上げます」と宣言しました。

今年度の経済動向は、アベノミクスによる円高傾向の緩和や株価上昇など、昨年度初頭とは対照的に明るい兆しが見えるものの、消費税率アップが景気に対しどのように影響するか不透明な部分は多く、引き続き厳しい状況が続くものと見られています。

また、部品取り車両の確保は、廃車車両の減少による仕入れ価格高騰に加え、大手解体事業者への廃車集中化が進むことで、ますます困難となっています。そして運送コストについても、リサイクル部品の価格競争にメリットに影響を及ぼすことから、その削減に取り組むことが必要とされています。

さらに、自動車保険新等級制度の本格始動は、リサイクル部品の利用が促進されるという意味では好ましいものですが、一方で業界が抱える供給率や価格、品質保証などの問題がますます顕在化するため、その対策をどう講じるかが重要となってきます。

こうした状況を受け、NGP協同組合では、組合員の部品生産力強化策を引き続き展開して参ります。具体的には、昨年度に「強い組合員を作る」という目的でスタートし60社が受講した「カイゼン塾」を今期も無料で実施するとともに、月間生産金額が1,000万円未満の組合員には参加を指導します。そのほか必須研修も無料化を継続し、組合員各社の生産現場力向上を実現させます。

車両仕入れ強化については、一般カーオーナーからの仕入れ拡大を図るため、従来からの「廃車王くるマック」を「廃車王」へとリニューアルします。そして、業界初の廃車オークションシステムを持つ新規サイトを立ち上げるとともに、来年2月からは全国ラジオCMを展開して参ります。物流コスト低減策としては、引き続きリターナブル梱包材の利用拡大に取り組むとともに、新委員会として物流委員会を設置いたします。

昨年度は、リサイクル部品生産金額が対前年比94.0%の142億2,331万6,000円と落ち込み、それに伴いリサイクル部品販売金額が同101.4%の461億8,385万8,000円に留まりました。NGP協同組合では、今期から2年間に年間売上高500億円達成の最終章とすべく、リサイクル部品業界のリーダーとして生産力強化に注力し、整備工場の皆様を第一に、よりよい商品をより正確により早くご提供して参ります。今後ともより一層のご支援をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

NGP協同組合執行部記者会見

年間売上500億円達成に向け 部品取り車両確保と生産力向上を表明

第9回通常総会終了後、長谷川利彦理事長はじめ大橋岳彦会長、山田彰副理事長、中村昌徳副理事長、玉木基裕専務理事、そして新任の小林信夫副理事長からなる正副理事長会メンバーが、恒例の記者会見に臨みました。

長谷川理事長はまず、仕入れ車両価格の高騰などによりリサイクル部品販売金額が微増、生産金額が減少となった前期実績について解説しました。そのうえで「部品生産金

額の減少をいかに立て直すかが、年間売上500億円達成のカギになる」とし、「カイゼン塾」拡大展開、「廃車王」リニューアル、リターナブル梱包材利用拡大などの具体策とともに、年間売上500億円達成という悲願成就に向けた決意を表明しました。

会見に参加した記者からは、特に年間売上500億円達成のための具体策について、より詳細な内容を確認する質問が多く寄せら



記者会見に臨む正副理事長会メンバー。写真右端が新任の小林副理事長

れ、事業環境が厳しさを増す中でのNGP協同組合の動向に対する注目度の高さがうかがえました。

NGP協同組合第27回定期総会懇親会開催

ご協力企業・団体のご来賓より 共存共栄を願う暖かく力強いご祝辞

NGPグループ時代から数えて第27回目の定期総会懇親会が、第9回通常総会終了後に開催されました。懇親会では、日頃よりNGP協同組合の活動に大変なご協力をいただいております業界団体、提携損害保険会社、リース会社、提携リビルトメーカーなど、多くのご来賓にご臨席を賜り、皆様より暖かく力強いご祝辞を頂戴しました。



来議院議員
公明党 幹事長代行
齊藤 鉄夫 様

これから日本が環境技術先進国として生き残っていきける最大のポイントは、この自動車のリサイクルだと思えます。新しい鉄を、資源を作らないで、しかし便利で豊かな社会を築いていけるポイントはリサイクルです。

その先端に立って働いていただいている皆様を後押しする政治でなければならない。その決意に立って、私も税の問題、また自動車の問題に、皆様と一緒に頑張っ参りますので、どうかこの1年間が皆様にとって素晴らしい業界発展の1年になりますことをお祈り申し上げます。



経済産業省 製造産業局
自動車課 自動車リサイクル室長
小野 正 様

自動車リサイクル法を2005年に施行してから、今年で9年目に入り、自動車リサイクル法が円滑に運用されております。使用済み自動車の排出台数は、昨年は341万台と、一昨年より50万台ほど少ないですが、今後これを大幅に増やすことは難しいでしょう。

その中で、NGPグループをはじめリサイクル部品を扱っている方々の活動がより重要になっています。民間の調査ではリサイクル部品は2,000億円の市場といわれており、市場拡大の余地はまだあると考えます。私共も出来る限り皆様にご協力し、環境に良いリサイクル部品がより一層活用される環境を作っ参りたいと思えます。



あいおいニッセイ同和損害保険(株)
常務執行役員
上野 晋 様

昨年10月に自動車保険ノンフリート等級別料率制度が改定され、ある程度の損傷であれば自費で修理しようという認識変化の中にあつて、私共は事故受付時にできるだけ丁寧にお客様の保険金のご請求意思確認をさせていただいております。その際、NGPグループとの提携があるからこそ、リサイクル部品を活用した修理の方法を、自信を持ってご提案できるのです。

私共は、これまでNGPグループとの関係を深めて参りましたが、今では商品開発部門、損害サービス部門、営業推進部門において、NGPグループはなくてはならない存在になっており、この関係は将来においても不変であると確信いたしております。



日本自動車車体整備協同組合連合会
会長
馬場 茂 様

鍍金塗装専門工場の我が社には、NGPエコひろばを使っお客様がいらっします。自費での修理が増えている現状、例えば事故の修理で来店したお客様が「このままでは乗れない、どうしよう」とお困りの時、「新品なら10万円必要な修理が半額で終わります」とすぐに説明・提案できますので、非常に助かっております。

BP業界からすると、今は営業のチャンスではないかと、お客様が保険の請求をやめたのちの、自費修理への誘導がしやすくなったと感じております。

今後とも、在庫の確保をお願いしつつ、ネットワークとスキルの高さを含め、ますますの発展を祈念しております。

今後の協力関係に期待

スペイン・マフレグループの経営トップがNGP本部を来訪

10月3日、マフレ・アシステンシア社のニコス・アンティミサリス マドリード本社社長、サルバドール・ピアダ アジア太平洋最高経営責任者が来日され、マフレ・ワランティ・ジャパン(株)の福本英雄代表取締役、小林正信取締役、石田一夫オペレーション本部本部長と共にNGP協同組合をご来訪されました。

これは本年4月1日、マフレ社のワランティ商品加入者の故障修理に伴う、リサイクル部品供給の業務提携に関する意見交換を目的とするものとなりました。

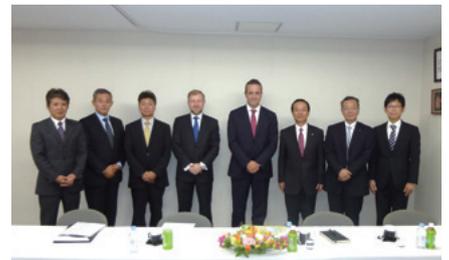
日本国内においてマフレ社が展開する、保証商品販売拡大及び修理ネットワーク構築に関する協力関係の方向性など、大変中身の濃い会談となりました。

ニコス・マドリード本社社長からは、EU圏及びスペインにおいて、マフレグループが展開しているリサイクル部品事業についても、具体的な説明がなされました。

今後のNGPグループとマフレグループの強い業務提携の成功に向けて、双方が信頼関係を保ちながら進めることを確認しています。



NGP 協同組合によるプレゼンテーション



ニコス社長(右から4人目)、大橋会長(右から3人目)ほか

第5回青年部会開催

HV引き取りマニュアルの年内作成を総会で宣言

NGP 青年部会の第5回会合が、第9回通常総会開催前日の10月27日、名古屋観光ホテル(名古屋市中区)で開催されました。今回は青年部会メンバー17名全員と組織指導委員会の佃正人委員長が出席し、今期の活動方針について議論しました。

その中で、チーム3732が担当するHV(ハイブリッド車)業務マニュアル作成について、清水道悦副会長より「最優先で取り組むべきではないか」という提案が出されました。

この背景としては、HVの保有台数が3百万台を超え、新車販売におけるHVのシェアが年々増加し9月には34.3%に達したことなどが挙げられます。

NGPグループでは、現状、教育委員会が

主催するハイブリッドカーセミナー(あいおいニッセイ同和自動車研究所)を開講することで、組合員社員への技術習得を展開しています。しかしながら、HVシェアの拡大がことのほか早く、NGP本部は次世代自動車への対応技術力の強化策をNGP協同組合の今期基本方針の主要課題として掲げました。

このNGP本部の基本方針を受ける形で、HV業務マニュアル作成に青年部会全チームで取り組みます。

第一次としては、引き取りに関する質問・回答および事例を12月開催の生産・フロント会議までに集約します。その後、年内には、HV車両引き取りマニュアルを完成させることとします。その後は、HVの分解、生産に

関する研究を行い、部品生産マニュアルを作成することを決定しました。

翌28日の通常総会では、17名のメンバー全員が全組合員の前に立ち、青年部会発足を報告するとともに、その活動内容を紹介しました。そして壇上に立った太田道人部会長は「我々の若い力でNGPの皆様のために、業界のために何が出来るかを考え、3つのプロジェクトを進めています。特に次世代自動車戦略プロジェクトでは、NGP独自のHV事故車に特化した引き取りマニュアルを作成いたします。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします」と高らかに宣言するとともに、青年部会活動へのさらなる参加・協力を呼びかけています。



青年部会メンバー全員で今後の方針を議論



通常総会では堂々とした面持ちで全組合員に披露

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成25年9月: **6,474t** NGP 1月からの累計: **59,228t** (全12団体 1月からの累計) **106,394t**



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成25年9月: **21.0t** NGP 1月からの累計: **217.3t**

第24回中級研修会開催

専門技術とより広い視野での リーダーシップを5日間で習得

第24回中級研修会が10月7～11日の5日間、あいおいニッセイ同和自動車研究所東富士センター（静岡県裾野市）で開催されました。生産、フロント、営業の3部門から計28名が参加し、1～3日目には部門ごとに専門的な技術研修・講義を受けたほか、4～5日目には3部門合同で、仕事およびリーダーシップのマネジメント、自動車リサイクル部品業界と整備業界の動向について学びました。

受講生の(株)堀尾自動車部品の松田伊知郎さんは「この研修会を通じて、今までは『誰かがやってくれる』『そのままにしておけばいい』と思っていたことも、『自分がやらなければ』『放置せず、しっかり取り組まなければ』と考える責任感が芽生えました」と、リーダーとしての自覚を強める良い機会となりました。

また、(有)西川商会の國岡好弘さんは「今回の研修は自分にとって大変勉強になるものでした。技術研修では、これから増えてくるハイブリッド車に関するものが、特に必要な



4日目のマネジメント研修ではリーダーの役割についてグループディスカッション

PDCAサイクルの運営や目標設定の考え方など、マネジメントの専門講義を受ける受講者

知識でした」と、最新の自動車技術に関する知見を広め、それらを日々の業務に活用して自社とNGPグループの発展に貢献する心構えを培うことが出来たとの感想を述べています。

5日目の修了式では、「マネージャーとして生産、フロント、整備、解体の各部門の壁をなくし、会社全体により変化を与えます」

((有)オートパーツまるも、古市憲彦さん)、「ただ販売するだけではなく、自分の持っている知識・技術を部下に伝えていきます。そのために気付いた点、アドバイス、販売に必要な情報を積極的に発信します」(石上車輛(株)、酒井慎也さん)と、中級研修受講後の決意を表明しました。

生産効率化システムの全国勉強会を実施

—システム委員会主催—

NGPシステム委員会では、昨年リリースした生産効率化システムの利用促進及び新規導入促進を図ることを目的として、同システムの全国勉強会を展開しています。

これは、生産効率化システムへの理解力そのものが低調であること、初期リリースの時から、第3次まで数々のバージョンアップを繰り返し、利便性が高く、また魅力的な機能を多く備えているにもかかわらず周知徹底が進まないことに問題点が見受けられたことによります。第9期のシステム委員会活動総括において、この反省点を先取りする形で、生産効率化システムの全国勉強会を展開するに至っています。

完成した生産効率化システムには、①営業現場からの見積もりデータ登録、②在庫車両情報と電子マニフェストの連携、③抹消関連帳票への連携印刷機能、④車両バーコードを活用した工程管理と電子マニフェスト連携、⑤在庫バーコードによる棚入れ棚卸しおよび画像登録、⑥タブレットPCによる生産現場での形状入力および画像登録等々の多種多様な機能が備わっています。

今回の総会において、牛場健次システム委員長は、自社での具体的活用事例とその効果について丁寧に説明し、今期活動方針の最優先活動として、生産効率化の周知活動に徹底的に取り組むことを示しました。



また、本システムの組合員導入を加速させ、組織全体での部品生産の効率化を徹底的に推進することで、在庫力・供給力の一層の向上を図りたいとしています。

さらには、見積りガイド廃版に伴う、純正品番及び部品分解図のNGPシステム取り込み早期実現に向けて、システム委員会の今期の活躍が大いに期待されるところです。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/